

次に、9番、下道議員の質問を許します。

9番、下道議員。

- 9番（下道英明君） 一般質問、本日が最後の登壇です。ここから議員の顔とか幹部職員のお顔を見ていると、非常に本日は大変多岐にわたる議論が尽くされたのだなという感じがいたします。この時間帯、気力、あるいは集中力が大変衰える時間帯ではございますが、議運の副委員長として空気を読みながら、私の持ち時間40分を予定しておりますので、前向きなご答弁、ご議論をしてみたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

今回の定例会におきましては、スポーツを活用いたしました地域活性化について、テーマを絞りお伺いしてまいります。

ちょうど先週末の連休中でございますが、地域奉仕ボランティア主催によります少年野球大会に参加させていただきました。場所のほうは、月浦の温泉小学校でございました。また、一昨日は本町地区におきまして、洞爺湖町陸上競技協会が主催しております駅伝大会も開催され、そこにも手伝いで行かせていただいたのですが、その中では町民の健康づくりの一環としてスポーツ活動の推進が図られ、関係各位にはご尽力いただいたこと、改めて感謝するところでございます。

特に、少年野球大会におきましては、将来のイチロウ、マー君を目指している周辺自治体の8チームの少年野球チームが月浦に集合いたしまして、2日間戦いました。また、駅伝大会におきましては34チームが参加し、当日は教育長のほうから開会式でご挨拶ありましたが、将来のオリンピック候補になり得る可能性のある子供たちも来ているといったような開会式の冒頭のご挨拶がありました。年々、参加チームがふえまして、草の根でスポーツ活動が推進されているということを実際に肌で感じているところであります。

さて、町民の健康づくりの視点から目を移し、観光活性化、インバウンド拡大、観光庁がニュー・ツーリズムとして強力に推進するスポーツ観光について、焦点を絞ってまいります。とにかくスポーツが持つ観光・交流へのポテンシャルが、非常に高く認知されているのが現状でございますが、特に我が町洞爺湖町におきまして、スポーツ観光の取り組みというのは、近年大変評価されるものかなと思っております。特に、他の自治体に比べれば、かなりイベントもございまして、それに携わるスタッフも大変なのですが、特にことしはトライアスロン大会の最高峰アイアンマンも誘致し、これは本当特筆すべきことだと思います。ことし洞爺湖マラソン、JAFラリー選手権、トライアスロンなど今年度の開催の現状と、これからの今後の取り組みについてお伺いしてまいります。また、きょう新聞記者さんも来ておりますので、恐らく今回のアイアンマンジャパンの現状について、来年どうなのかということもお聞きしたいと思って、恐らく傍聴席には来ていると思いますので、そこら辺のところもお含みいただきながら、課長、町長のほうからご答弁いただければと思います。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） それでは、今年度の開催の状況と今後に向けてのこの2点についてお話をさせていただきたいと思います。

ご存じのように、近年マラソブームを初めスポーツイベントということで、ことしは5月19日に、39回目を迎えます洞爺湖マラソン、エントリー数が初めて7,000人を超える7,339人。7月5日から7日に開催されましたJAFの全日本ラリー選手権の第4戦ということで、参加車台数が73台の146名のドライバーが運転を見せていたところがございます。それと、8月28日から9月1日にかけて、アイアンマンジャパン北海道、これは世界各国から参加者数を含めまして、エントリー数が1,549名というふうになっております。先週の9月14日、15日、あいにくの雨模様ではございましたけれども、北海道ツーデーマーチ大会が、延べで1,186名の参加を得てございます。

今後の日程については、9月28、29日、グランfond in洞爺と、これは自転車競技のほうになりますけれども、これは昨年度の実績で89名の参加をいただいているところがございます。また、これ以外にスポーツ大会ということで、ジュニアのほうサッカー大会、練習・合宿など含めて、町内の施設を利用いただいているところがございます。町外からのワンストップサービス事業といたしまして、NPO法人組織が取り組んで宿泊・食事など、地域貢献に寄与している状況でございます。

次に、今後についてでございますけれども、当地域におけるスポーツ環境についての利点、これは気候的な優位性など、あと宿泊施設、それと交通の利便性などが、他のところよりも優位性があるのかなというところで、今後とも近隣の市町とも連携しながら、取り組みを進めてまいりたいというふうに考えているところがございます。

それから、アイアンマンジャパン北海道大会の次年度以降についての開催ということでございますけれども、現在、実施をする方向で今回のコーディネートをいたしました会社内部で調整をしているという状況でございます。また、このことにつきましては、10月1日に開催をいたします実行委員会という中で、正式に協議をされるという運びとなっている状況でございます。

以上です。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） アイアンマンジャパンに関してはまだ未定であるけれども、10月1日の正式な実行委員会において、その行方がわかるという形よろしいですか。（発言する者あり）実施する方向でございます。

それと、今回、洞爺湖マラソンは39回目だったのですが、来年40回の記念大会になってくる状況になります。そうなりますと、やはり古くは労働、オールドボーイレースからなっております、やはりあの当時から40年、ちょうど僕も中学生か小学生だったと思うのですが、第1回目だったのですが、そこから育っていきながら来年40回なのですが、そういった点でそろそろ洞爺湖マラソンが、非常に大きなイベントにな

ってくると思いますので、ちょっと早い話なのですけれども、関連の質問として何か40回に向けて有名な選手を呼ぶとか、ことしコース変更いたしましたので、コース変更はしばらくだと思いますけれども、新たな集客に向けてそういった何か青写真があれば、答弁いただきたいと思います。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） 来年度ちょうど記念大会の40回目を迎えます洞爺湖マラソンでございますけれども、先ほど議員おっしゃられましたとおり、ことし初めてコース変更をいたしまして、正式なコース認定を受けたところでございます。これについては、40回目の大会を意識しながら、前の年に40回目に向けての一つのコース変更というふうにご理解いただければと思います。

また、40回大会に向けての例えば、これまで有名な選手の招聘ですとか、そういうことがなかなかされておりませんでしたけれども、今回の大会から40回目を見据えて有名選手の参加依頼等も含めた中で、どのようなつくり込みをしていくのかと。今回については、ある程度の備品関係ですとかスタート位置などについても、40回大会を意識した中で運営を実際にしてございます。

今回の反省の中では、7,000名を超えたエントリー数ということで、従来から課題となっておりました駐車場問題ということも大きく、その課題として上げられているところでございます。今後、この問題をどのようにクリアしていくのか、当然、運営上の安全な運営を望んでいかなければならないという部分と、それと参加される選手の方々にも満足のいくような運営内容に、早い時点からいろいろ取り組んでまいりたいというふう考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） ぜひ、来年40回記念大会ですので、早目早目の前倒しでビジョンをお示しいただいて、最近、本当にマラソンのランナー、総人口が非常にふえておりますので、そういった点では、集客して集まらないというのは寂しい話ですけれども、ふえて何か困るというのもぜひいたくな話になりますけれども、そういう方向性で努力していただきたいと思います。

特にさまざまな会合、勉強会、交流会通じましてほかの市町村議員から、とにかく洞爺湖町はうらやましいという声をよく聞きます。なぜかといいますと、町名のイメージと地域というのが非常に合っているというか、風光明媚というスポーツ・ツーリズムですね、そういったものがイメージしやすいと。これは国立公園を持つ自治体としては、非常に大変メリットのあるところだと思うのですが、先月、個人的に地方議員向けのサマースクールにお勉強しに行ったのですが、そのときに当選1期生から当選8回生までの現職議長も含めまして、政策立案の基本、議員提案の条例立案のポイントなどを勉強させていただきました。

その中で休憩時間ですとか、あるいは名刺交換している中で、特に他の自治体議員の

皆さん、異口同音におっしゃるのは、とにかく観光振興、地域活性化、スポーツ振興といってもまず最初に町名を知ってもらうことにすごく力を入れてしまうと、所在地をわからないところはたくさんあると。実際に、例えば宗谷地区ですとか、オホーツクの何々町、市ならわかるのでしょうけれども、179のうち、では町村しっかりみんな言えるかという、市町村言えるかという、なかなか難しいと思うのですね。

ただ、本当は洞爺湖町の場合は、合併してから非常にいい名前になって、日本客にしても外国人のインバウンドにしても、非常にわかりやすい町名になっております。そういった点で、知名度の低い市町村からはやっかみではないのですけれども、もう観光振興といったら最初からハードルがあるよと、こういったお話を聞くわけなのです。

先般、交流させていただいた議員から、恵まれた環境なのだから、議会でどんどん交流に対する、あるいはスポーツ振興に対する施策提言をしていきなさいと言われたのですけれども、おしかりを受けてきたわけなのですが、深読みしますと、もっともっと交流人口を自分だったらふやせるのだらうになと、逆に嫌味を言われたような気がちょっとしたのですが、スポーツ観光振興に取り組んでいく中で、ある地域の自治体議員の方は、やっぱりうちの地域では無理だと。酪農ですとか、そういったところでスポーツ観光、スポーツ振興というのは基本うちの町に合わないといった本音を言われている、おっしゃる方もいらっしゃいました。

そういった点で、例えば、登別・洞爺広域観光ですとか、あるいは箱根町との姉妹都市結んでいるわけなのですが、観光地を持たない自治体との交流というのも、非常に大事なのかなというふうに感じておりました。そういった点で、観光地を抱える町のありがたみというのを、ほかの自治体の人は非常にうらやましく思っているということを私たちもやはり認識しながら、政策に提言して実行していかなければいけないということを感じたのですが、特に他の自治体から比べてスポーツ環境の利点であるアクセスの利便性ですとか、あるいは宿泊施設の充実など、当町としての優位性というのがかなりあると思うのですが、今後の展開としてどうやって維持していくか、そして今はやりの言葉ではございませんが、成長戦略ですとか、あるいは第三の矢ではないのですけれども、そういった形で町長、これからの洞爺湖町の観光の優位性というのをどのように維持して成長していくのか、お聞かせいただければと思います。

○議長（千葉 薫君） 真屋町長。

○町長（真屋敏春君） 今、議員がおっしゃっていただきましたとおり、私どもの地域というのは地域の特性といたしましうか、いわゆる交通の便、国道230号線、あるいは道央自動車道、そして千歳空港からややもすると1時間30分圏域でこちらのほうに来られると。それから、気候面では北海道の中でも温暖な地域ということで、特にスポーツをやった後、宿泊施設に入って温泉につかり、疲れを癒していただく、これは立地条件としてすばらしいものがあるというふうに思っております。

また、今、洞爺にぎわいネットワーク、ここでワンストップサポート事業というのを

展開させていただいておりますけれども、やはり1カ所に頼んで全てのことが賄いきれる、それはこの洞爺湖の特性かなということ、今、だんだんその人口の輪がふえてきているというふうなことも聞いております。洞爺湖温泉、夏場はそれこそイベントが結構ございまして、にぎわいを見せている部分もあるわけですが、平日はややもすると空いているお部屋もあるということから、スポーツ観光につきましては、これからも力を注いでまいりたいなというふうに考えております。

また、あわせて今、洞爺湖温泉街の中であるのですが、療養型プログラムといたしまし
ょうか、温泉につかって体を癒す、こういうことにもちょっと今、お話承っているところがございまして、スポーツ観光、あるいは療養型、こういうふうなところにも温泉の関係者とよく協議をしながら、できるところから進めてまいりたいなというふうに考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 今、町長のほうから、特にスポーツ観光だけではなくていわゆる療養型、メディカルツアーと申しますか、例えばバンコクなんかは非常に優秀な病院がたくさん多うございまして、その中には日本のトップ5以上の病院が四つございます。多くの富裕層の方がシンガポール、バンコクに向けて医療をメディカルで手術オペレーションとか、そういったことをしているというのがありますので、ぜひそういうお話が地元洞爺湖にあるのであれば、推し進めていただきたいと思っております。

それでは、次に、2番目のほうに入っております。

地域社会が縮小の時代に入っていく中で、スポーツ観光も例外ではございません。各地域では開催されているマラソン大会を含め、各種イベントにおきましてボランティアや大会スタッフが非常に高齢化などを含めまして、運営面でさまざまな問題を抱えております。先般、開催されましたアイアンマン大会におきましても、非常に新聞等の記事にもボランティア不足ということで、自治会の関係者の皆様も急遽呼び出されて、呼び出されと申しますか、急遽要請が来ましてお手伝いしたという状況でございます。

また、現実問題、例年、洞爺湖マラソンに関しましても地元自治会、婦人団体、あと文協さん、体協さん、高校生ボランティア、また私どもと提携しております酪農学園大学の学生等参加していただいているのですが、以前もたしか質問、あるいは延べで大体何人ぐらいがボランティアで、人数が確認しているのかなと思ったのですが、800名前後と聞いていたのですが、洞爺湖マラソンに限定した場合は、ボランティアスタッフというのはおおよそ800名前後なのか、そしてまたついでに今回アイアンマンでどのくらいのお手元に資料がなければいいのですが、アイアンマンのボランティアのスタッフと今回のツーデーマーチ、あと今週あるグランfondでは、あれは100名、切っていますので、選手は来ていますのでそう多くないと思うのですが、とりあえず洞爺湖町のイベントのボランティアスタッフの人数をお示しいただきたいと思っております。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） ボランティアの人数でございますけれども、先ほど議員おっしゃられましたように、洞爺湖マラソンについては約800人ということでございます、これは当然、関係する例えば室蘭陸協ですとか、隣町の壮瞥町からも協力をいただいているという状況でございます。

次に、北海道ツーデーマーチでございますけれども、これも同様に豊浦、壮瞥、伊達のほうからもご支援いただいているボランティアスタッフ等全部含めまして、約400名の態勢の中で事業を展開しているという状況です。

また、アイアンマン大会でございますけれども、これはちょっとまだ正確な数字は聞いておりませんが、途中経過の中で私のほうで認識している人数としては、全体で1,200名という数字になってございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） スポーツの大体、今、ボランティアの人数のほうはおおよそ把握いたしました。スポーツの多様化に伴いまして、やはり選手としてするスポーツ、またアイアンマンのように、どう考えても練習しても、アイアンマンのエントリーはできないと思うのですが、いわゆるアイアンマンのような異次元空間でこちらが見て楽しむ、一番早い選手で8時間で、一番最初のゴールしたときに、町長が花束渡していただきましたけれども、僕も遠くからタイムックスのかんからかんと鳴らして祝福したのですが、その後、8時間後に行ったら、まだ走っているのですよね、ほかの17時間ですか。

ですから、そういった点では、はっきり言って全然フルマラソンとか、100キロマラソンとか違う、別の異次元の空間のスポーツです。これはまさしく見るスポーツだなと思ったのですが、それと同時にそういった競技生活、あるいは日常のスポーツを経験した方が楽しむクラブ・競技団体とか、こういったイベントの運営やサポートを支えるスポーツというのがあると思うのです。するスポーツ、見るスポーツ、支えるスポーツ、この支えるスポーツというのは非常に重要性があるかと思えます。

スポーツのボランティアには、やはり地域における同好会ですとか、団体の行動活動を指導していく、体育協会もたくさんの方が、指導者OBの方が加入しているのですが、そういった点で運営スタッフとして日常的にサポートする活動と、あと今回のような異次元空間を一生懸命サポートしていくような非日常活動でのサポートと、こういったものがあると思うのですが、いかんせん絶対数としてやはりスポーツイベントを支えるマンパワーというのは、慢性的に不足しているのが現状です。

実際に、観光振興課の皆様も役場の職員もそうですし、自治会もそうですし、婦人団体も文協も体協も大体ほとんど同じような方が、へろへろになりながらスタッフとして支えているのが現状だと思うのですが、その中でスポーツイベントというのは実際は、実行委員会組織を中心にして運営されていますが、行政もその中に入って事務局として活躍しているのですが、どうしても例えば自治体ですとか、あるいは体協、文協から、その組織の中でボランティアとして活動して、「はい、きょうお疲れさまでした」

ということはあるのですが、それだけではなくて、その活動した人が何を考えて今回洞爺湖マラソン、ツーデーマーチに参加してもらったかということも大事だと思うのですね。

それで、そういった点では、例えば神奈川県なんかはスポーツボランティア実態調査といいまして、これはある所属団体からボランティアとしては行くのですけれども、その個々の人が今回はアイアンマン大会、何だか協会で所属して手伝ったけれども、非常に勉強になったよだとか、こういった運営面が悪かったよといった形の調査が出ているらしいのですが、今までの洞爺湖町の大会の中で、こういった大会にかかわった感想ですとか、あるいは次回への参加ですとか、継続などといった自治会経由とかであってもなくても個々の方が参加しているわけですから、そういった方へのアンケートというか、ボランティアの調査というのですか、そういったものというのは実施しているのかどうかお聞きします。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） ボランティア参加者への調査というものについては、実施はしておりません。参加者からのアンケート調査、ただし組織運営の中で各役割のところでは反省点ですとか、そういういろいろな運営上の問題点だとか、そういうものの意見聴取ということは、洞爺湖マラソン、ツーデーマーチ等については意見集約という形の中で行っております。これは当然集約した中で、次回開催に向けて反省点などを次回のクリア項目ということで調整を図りながら、取り組んでいるという状況でございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 今、実際は、要はそんなにやっていないということだと思うのですが、スポーツ観光を活性化していくためには、ボランティアを推進する立場というのと、来てよ来てよというのと、そのボランティアを助けてあげるといいますか、支えていくという両面がやっぱり必要だと思うのですが、これは神奈川県のアンケートの中では、どういったことを調査しているかといいますと、ボランティアの活動年数、スポーツとのかかわり、スポーツの実施率、これは1週間に1回・2回歩いているよとか、副町長は早朝に犬と散歩しているよとか、こういうのもカウントされると思いますけれども、あとボランティア参加の決定要因ですとか、あと家族の理解ですよね。これは毎週土曜・日曜いなければ、家族の方もかなり不満もあるかと思うのですが、その中で主催者、行政の要望というのがございまして、ベスト5というのが、もう少し仕事の段取り立てをしてほしいと。要は、ぼんち行って、あなたこれやってよ、袋詰めしてよ。ツーデーマーチの場合は袋詰めとかありますけれども、アイアンマンの場合でしたら、前回は受付やったのですが、行って初めて担当がわかってしまうと。そうすると、全く素人なのでこれはどうなるのかと、精神的な不安があるのですね。

あと、2番目に仕事の内容を明確にしてほしい。これは先ほどの1番と同じく段取り立てて、段取り立ててということは主催者に対してだと思っております。仕事の内容という

のも事前に告知していくということだと思えますね。

あと、3番目は責任・苦情を伴わない箇所に配置してほしいと。これは当然の話で、僕ももしそういう立場になれば危ないところには行きたくないですし、やはり危険だと思うので、そういった点ではその配置。

あと、もう一つすごく気になったのは、「活動に感謝してほしい」というアンケートございました。これは、もしかしたら10時に集まって、「お疲れさまでした、ご苦労さま」、実行委員は忙しくてばたばた、観光振興は一生懸命、本を撤収している。では手伝ってくれて、本当に純粋な気持ちで手伝ってくれた方に対して、何というのでしょうか。その言葉というのですか、言葉かけることはお金かからないですから、やっぱりどンドン声かけて、それが気持ちとしてつながってくるわけですから、笑顔ですよ。

僕、このアンケート見たときに「あっ」と思って、今、議会の中ではイベント屋みたいなことをやっていますから、いろいろところでボランティアみたいことやっているので、そういった点では、「活動に感謝してほしい」というのは、確かに僕も言っていないなという、思いました。これは今後ボランティアを、だからボランティアが集まらないというのは原因には何か結果がある、結果には何か原因がある、その中の一つがこれなのかなと思ったのです。

あとは、情報の提供してほしいということがありました。そういった点が、例えば今度10月14日にスポーツ祭りというのがありますけれども、これはただ単にチラシだけで終わってしまうことだけではなくて、やっぱりそういった告知して皆さんに知らせていくということも必要なかなと、そういうのは思ったのです。そういった点で、今後、ますますスポーツのイベントのニーズの増加によってボランティアが必要になってくると、そういうふうに思います。

そういった点で、各種イベントの実行委員会も従来の自治会ですとか、あるいはボランティアを募集するだけではなくて、ボランティアした人個々の思いを酌み取るような運営が大切だなというふうに思うわけなのですが、そういった点でこれから、今までやってなかったということですが、これから行政からのアドバイスとして実行委員に入っていくときに、ボランティア活動した人たちへの個々のアプローチということになってしまうと、これ個人情報になりますので自治会との関係もあります。自治会長でさえ、なかなか住所を見られないという現状でございますので、なかなか行かないのですが、せめて無記名でもいいですから、ボランティアとして活動した人たちの本音というのですか、それ必ず文書で出てくると思うので、ぜひ今までアンケートとかでとっていらっしゃるかとは思いますが、さらに一歩進めて、それを定期的に町民の皆さんにお示しできるようなぐらいのアンケートとか報告をまとめて、それをフィードバックしてボランティアの募集につなげていけるようなことができないのかなと思うのですが、いかがでしょう。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） 今後のこれらの大会自体が実行委員会制で行っていただきますので、議員、今、ご提案のありましたボランティアの方々の参加しやすい、それとそういうボランティアの方々からも広く意見等を聞くような環境について、進めてまいりたいというふうを考えております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 一般質問の件名2のほうに、ボランティアの対価として、地域限定でサービスを受けられる地域通貨、地域マネー等を供与し、ほかの地域から有償ボランティアを検討すべきとご提案しますという形だったのですが、実際には交通費ですとか、あるいはお弁当、記念のTシャツなどを有償とする考えもございますし、また、ボランティアというのは自発的に志願するものだから、有償・無償という区別するのは意味のないことだといった意見も実は一般質問出してから、地域の方からコメントをいただきました。そして自治体におけるスポーツ振興というのは、住民の健康増進、コミュニケーションの活発化、高齢者の医療費の節減等、本来の目的とする側面と、先ほど述べましたように観光振興としての地域活性化の側面がございます。そういった点で、当町とかかわりのない組織や、あるいは有償ボランティアにもし頼るようなことがあったら、ひょっとして洞爺湖町と関係ないから、この大会はどうしようかということも遡上に上がっては困りますので、イベント開催の有無も検討されることもありますし、また、今回有償ボランティアの導入に関しまして、関係団体といろいろこの1週間ちょっと意見交換させていただきました。

その中では、ちょっとまだ時期尚早ではないかという意見もございまして、そういった点でもう少し自分なりに考えて、また、ご提案させていただきたいと思いますが、とりあえず参考程度に、仮にその地域マネー等供与したときの有償ボランティアというのは、実際、現実問題として可能なかどうか、ちょっとお聞きします。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） 有償ボランティアとって、ボランティアの使い方かと思われるのですが、私の認識の中ではボランティアというのは、そういう活動の中には有償、金銭的なものというようなのは含まれないという認識でございます。

それで、これまで先ほど議員もおっしゃられております我が町と、いろいろな交流のある例えば大学の学生の方々、ここ近年については大変貴重な戦力ということで、協力をいただいているところでございます。当然、大学が遠方のほうから来られるというその交通費と、当日に来るというのは不可能なことです。宿泊とその食事にかかわる部分、これは依頼する側のほうの準備にかかる経費という程度の内容であれば、当然、対応すべき範囲なのかなと。それ以外に、日当的部分ということについては抵抗があるのかなと、ほかの町民の方々を含めて基本的に無償の中でやっていただいているという現実がございますので、そういったところで今後推移を見ながら、検討していか

なければならないことの一つでもあるのかなというふうな考えを持っております。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） 大分時間も押してきましたので、持ち時間できるだけしっかり守ろうと思います。

市町村の多くというのは、町民の健康増進ということで、子供ですとかおじいちゃんとか高齢者とかそういったことが多いのですが、洞爺湖周辺で行っているスポーツ観光というのは、むしろ生産年齢、やっぱり働き手の人たちが楽しめるイベントだと思いますので、そういった点で健康面とか町づくりとか、そういった側面は確かにわかるのですが、経済効果をもう一度見直しながら、有償ボランティアというのを私自身ももう一度勉強し直してきますので、ぜひ再度ご提案したときにはきちっとしたご答弁よろしくお願い申し上げます。

それでは、最後の質問のほうに入らせていただきます。

最後の質問、東京オリンピックの話がきょう朝から出ておりましたけれども、東京オリンピックの開催も決まり、各種スポーツ大会誘致、過熱していくことが予想されると。当町におきましても既存の大会運営、運営力向上に向け高齢化が進む実行委員会をサポートする、新たな外部組織の必要性を感じる。持続可能な大会運営に向け、スポーツイベント、ディレクターなど関係団体等々と検討すべきではないかといった質問をさせていただきました。

これは実行委員会の組織運営の中で、特に外部組織をつくって、さらにその組織運営の力強くさせていこうという形だったのですが、実は、私は体育協会をベースに社団法人、あるいはNPO法人の発足を想定して、スポーツディレクター等を指名して外部団体として運用しようと、運用していく提言をしようと思ったのですが、実は僕、体育協会の事務局になってしまったものですから、そういった点で利益が相反すると思ひまして、これは今回こういったご提案をしたということで、次回これもまたそういった体協関係の人事から外れたときに、もう一度再度勉強し直して再提言させていただきますが、これもせつかく一般質問しておりますので参考程度に、実際に可能なかどうかということと、ちょうど2年前に同じような質問をさせていただきました。このときは、今、観光協会にいる佐々木参事が答弁しているのですが、その中で町長答弁のほうのも職員の限られた人員の中で、スポーツディレクターなるものが本当にできるのかどうかということについて、いま一度検討させていただくというふうに書いておりましたけれども、その点も含めまして再質問というか、同じような質問なのですが、今回ちょっと当事者になってしまうものですから、一応、参考程度ということでお聞きいたします。

○議長（千葉 薫君） 澤登観光振興課長。

○観光振興課長（澤登勝義君） まず、スポーツディレクターの設置の検討についてということでございますけれども、現時点では、この点については結論が出ておりません。観光振興策としてのご提案でございますけれども、23年6月以降の観光への取り組みと

いたしましては、震災後の観光産業の復興策として、誘致活動に主力を置かなければならないというような環境でございまして、現在も続いていると。ことしに入って災害前の状態に、ようやく回復しているという状況でございまして、今後、これらのスポーツ観光のほうにも力を入れられるような状況になってくるのかなということでございます。

それからもう一つの組織に対する移管をできるかどうかということでございますけれども、ご存じのように、現在、実行委員会組織の中でやっております、その中で大会運営については収入面で、商業ベースで考えますと、参加費、それからスポンサーの協賛、グッズ販売等の収入というものに対して、運営費、人件費、競技備品、式典等の経費から各種許認可関係の申請、それと住民周知と対応・対策と関係機関との調整・会議等というようなことが、大まかな大会運営の業務になってくるかと思えます。

規模の大小はあろうかと思いますが、この点が重要なポイントとなると。これをイベント会社ベースで考えていきますと、なかなかこういう状況の中で実施すると、採算ベースがとれるかという部分については厳しいのかなという見方をしております。町内における行政と住民との相互理解と協力態勢の中で、初めて成立することなのではないのかなというふうに考えているところでございます。

○議長（千葉 薫君） 下道議員。

○9番（下道英明君） わかりました。まず、体協との関係がしぼりが取れてから、再提案させていただきたいと思えます。

若干予定時間を過ぎましたが、以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（千葉 薫君） ご苦労さまでした。

これで、9番、下道議員の質問を終わります。

以上で、本日の一般質問は、これで終了いたします。

◎散会の宣告

○議長（千葉 薫君） 以上で、本日の日程は、全て終了いたしました。

これで、本日は解散をいたします。

ご苦労さまでした。

（午後 3時45分）